回覧

■探訪録■ 秘境 小和田駅と徳久保集落

小和田駅舎

「かつて塩沢集落の更に山奥に徳久保（とっくぼ）という集落があった。そこにはネズコの巨木とともに集落跡が静かに残っている」

昨年にそんな話を伺ってから、長らく徳久保集落を訪れたいと思っていましたが、ようやく実行することができました。

今回は飯田線小和田駅を下車後、塩沢集落を経由して徳久保集落に徒歩でアクセスしましたので、道中の写真とともに探訪録をお届けします。

小和田駅と塩沢集落をつなぐ道

小和田駅はかつて塩沢集落を含めた周辺の集落の住民が利用していましたが、現在地元の方に利用されることはほとんどありません。

一方、その秘境感を求める観光客や鉄道愛好家などから根強い人気があり、駅舎の思い出日記帳には、訪れた人たちの膨大な手記が残されています。

新婚さんに人気だった

駅舎前の景色

日記帳の端っこに走り書きでどこかの誰かが書いたこんなメモが。

「ヤッホーと　恥じらうことなく　叫ぶ妻」

小和田駅の開放感が伝わるとともに、微笑ましい情景が浮かんできました。

小和田駅は一度下車すると二時間程度は電車が来ないのですが、この日記帳を広げながらゆっくり時間を過ごすのもまたおすすめです。

塩沢に向かう歩道

ツチアケビが生えていました

駅から塩沢集落へと続く歩道は、かつての生活道としての名残で「市道」扱いになっているそうです。小和田駅から一時間ほどで塩沢集落と天竜川林道に到着するこの歩道は、人が住まなくなった家や畑など、生活の跡が垣間見えるとても興味深い道でした。

駅前を流れる天竜川

日記帳

歩道終点（始点）・塩沢集落

一緒に歩いて下さった小松実さんは、高校時代に年賀状を塩沢集落まで届けるアルバイトをしていたそうです。小和田駅から集落までの間を次の電車に間に合うよう、冬の寒さの中、急いで歩いた思い出がよみがえったようでした。

配達したお宅でみかんなどのお土産を持たせてくれるので、往路よりも復路の方が荷物が多いこともしばしばあったそうです。

徳久保集落へ

塩沢集落から天竜川林道を天龍村方面に向かって三〇分ほど歩き、さらにそこから山を一時間半ほど登ったところに徳久保集落はあります。

車社会とは無縁な場所に位置しており、昭和の前期まで炭焼きなどをして生活していたようですが、今では衛星画像で確認しても集落があった痕跡すらわかりません。昭和二五年の人口動態調査で既に徳久保の名前が消えていたので、少なくともこの頃には、ほとんど人が住まなくなったのだと思われます。

人工林を歩く

■ 集落の様子 ■

廃屋が一軒と神社跡があったほか、建物は確認できませんでしたが、石積みの跡はたくさん確認できました。廃屋には昔の大きなノコギリや鉄の塊のような重いチェーンソー、鉄瓶などが残されていました。集落の入口には炭焼き窯の跡があり、かつての生活の様子が垣間見えました。

■ ネズコ巨木 ■

樹齢八〇〇年ともいわれるネズコの巨木が集落の中にどっしりと構えています。さらとした赤みがかった樹皮と鹿の子を思わせる白い斑点から、非常にしなやかで美しい印象を受けました。枯れた枝が何本も張り出している様子は、生き物の骨を思わせます。朽ちゆく廃集落の中で、今なお生き続けている一本の巨木の姿が記憶に焼き付けられました。

ここに来て良かったです。今まで多くの集落を歩いてきましたが、これらの情報をまとめて、しっかりと地域に残していきたいと考えています。

石垣

神社跡

※　林道をはずれてからの山道は、「山に生きる会」が案内の印を付けてくれているとはいえ、わかりづらい箇所も多いです。今回、新たに印を付けたり、倒木を処理したりしたので、わかりやすくなったとは思いますが、単独で初めて来訪することはあまりおすすめできません。行かれる場合は、地図やＧＰＳを持参することをおすすめします。

廃屋

ノコギリとチェーンソー

ネズコ巨木

特徴的な鹿の子模様

＜連絡先＞　栗島：080-1623-0565　　水窪協働センター　地域振興グループ：053-982-0001

ホームページはコチラ！▸▸ https://www.tenryu-misakubo-life-yamaiki.com/